

富津市総合教育会議 会議録

1 会議の名称	令和5年度第2回富津市総合教育会議
2 開催日時	令和6年1月25日(木) 午前9時から9時40分まで
3 開催場所	市役所4階 401会議室
4 審議等事項	教育大綱及び教育施策の改定について
5 出席者名	高橋市長、岡根教育長、藤平教育長職務代理者、坂部委員、池田委員、嶋野委員、平野教育部長、細谷参事兼学校教育課長、中山教育総務課長、大畑学校教育課主幹、三浦教育センター所長兼学校教育課主幹、宮崎学校教育課主幹、樋口生涯学習課長、長谷川公民館長、鶴岡教育総務課庶務係長、刈込教育総務課主事
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	(理由)
8 傍聴人数	0人 (定員 6人)
9 所管課	教育部教育総務課庶務係 電話 0439-80-1340
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

発 言 者	発 言 内 容
平野部長	<p>それではただいまから、令和5年度第2回富津市総合教育会議を始めさせていただきます。</p> <p>地方自治法第180条の2の規定により、教育委員会が補助執行することとしていますので、私、平野が務めさせていただきます。よろしくお願ひします。</p> <p>なお、地方教育行政の組織および運営に関する法律第1条の4第5号の規定によりまして、原則公開となっておりますが、本日傍聴人はございません。</p> <p>それでは、次第に沿いまして、会議を進めさせていただきます。</p> <p>初めに高橋市長からご挨拶をお願いします。</p>
高橋市長	<p>改めまして委員の皆様には朝早くからお集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>本日、今年度第2回目の総合教育会議を開催させていただきますけれども、本日は令和2年度に策定いたしました富津市教育大綱および教育施策の改定に向けて、委員の皆様と協議をさせていただきたいと考えております。</p> <p>特に教育施策につきましては、教育大綱の基本理念であります、「人と人とが温かく繋がり、生涯にわたり学び、健康で活躍できるまち」を目指し、教育および文化の振興を図る上で重要な指針であると考えておりますので、ぜひ本日は忌憚のないご意見をいただきますようお願いを申し上げます。</p> <p>さて、年が明けて1月早々には、能登半島におきまして、ご存じのとおり大変な災害が発生しています。被害にあった方々には心からお見舞いを申し上げますと同時に、私どもといたしましては、今週の頭から、防災安全課の職員が2名、現地の避難所運営の応援に入らせていただいています。</p> <p>千葉県からの指示に従いまして、県下の市町村が順番で応援に回っており</p>

まして、今週は私どもの順番が回ってきたというなかで、是非行きたいというような強い希望を持って、職員が望んでくれて本当にありがたいと思っていますし、しっかりとお役に立って、その中で少しでも、どこかで端で見たことでも、今後の富津市の防災に繋げていけたらいいなと考えているところでもあります。

また、教育面に目を移しますと、昨年にご案内の通り4月に市立図書館を開館することができました。当初私達が想定をしていた人数を大きく上回る方たちに現在も利用していただいています。

応援をいただく方も非常に多く、徐々に蔵書の方も増えてきて、私も2週間に1回ぐらい図書館に本を借りに行き、また返しに行くわけですが、本棚が埋まってきたなというのを実感できるぐらい蔵書が増えてきていると感じています。

しかしながら、今の図書館の形が完成形だとは思っておりません。利用者の方たちのご意見をいただいて、そして同時に、利用されない方たちがどうして利用していただけないのかというようなことも、ご意見をいただければ耳を傾けて、より愛される図書館を目指していきたいと思っています。

加えて、様々な施設が老朽化している給食調理場ですが、ご覧の通り市役所前の新共同調理場の起工式を行わせていただきました。現在、様々な資材の高騰があると聞いておりますけども、事業者の努力で、想定通り予定通りの工事日程で進んでいるということでもありますので、来年度いっぱいでの完成、そして再来年の4月からの稼働を目指し、今後も進めてまいります。

さらに、大佐和中学校の体育館ですが、子供たちや学生の皆さんに非常に不便をおかけしています。担当が一生懸命に準備を進めておりますので、一日でも早く完成して、安全な体育館、安心して使える体育館を、大佐和中学校の子供たちに、一日も早く提供できるようにこれからも頑張ってお参りたいと思っています。

昨年、富津市内で生まれた子どもは約130人だということで、様々なと

	<p>ところで色々な方から発言をいただいています。これは現実でありまして、今年も大きくその数字が変わっているという状況はありません。</p> <p>しかしながら、子供が少なくても、一人一人にかける時間とか愛情は、決して多くの子どもがいる地域に負けてはいけないし、小さな地域だからこそ、もっともっと一人に対して愛情を持って、そして力強く子供たちが頑張っていけるような環境を努力して作り上げていきたいと思っています。</p> <p>そのためには、教育委員の皆さんのお力添えは欠かすことができないと思いますので、今後とも何卒ご協力のほど、よろしく願いいたします。</p> <p>まともりませんが、挨拶といたします。</p> <p>本日はよろしく願いします。</p>
平野部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に会議録署名人の指名ですが、富津市総合教育会議運営要領第4条第3項の規定により、市長及び会議において指名した委員にお願いすることになりますので、高橋市長は、会議録署名人の指名をお願いいたします。</p>
高橋市長	<p>はい。会議録署名人は、岡根教育長をお願いいたします。</p>
岡根教育長	<p>承知いたしました。</p>
平野部長	<p>早速ですが、議事に入らせていただきます。</p> <p>本日の議題は、「教育大綱及び教育施策の改定について」としております。</p> <p>それでは、議題について、事務局から説明をお願いします。</p>
教育総務課長	<p>それでは議題についてご説明いたします。</p> <p>はじめに教育大綱素案についてご説明いたしますので、資料1をご覧ください。</p> <p>教育大綱については、教育及び文化の振興に関する施策について、根本</p>

となる方針を定めておりますが、現在の大綱の根本を変更する要因は現時点ではないと考え、2 教育大綱の基本理念、3 基本施策、4 富津市の教育振興基本計画、5 富津市の教育大綱と教育施策の各項目とも変更はありません。

次に教育施策の素案についてご説明いたします。

資料2をご覧ください。

第1章の学校教育の充実の展開施策1 確かな学力を身につけた児童生徒の育成に、新たな項目として、2 ページ(2)のICT教育の推進、3 ページ(4)にキャリア教育の推進を追加。

同じページ展開施策2 豊かな心の児童生徒の育成では、(2)に豊かな心を育む教育の推進を、4 ページ(4)に不登校児童生徒支援についてを加えました。

展開施策4の児童生徒の成長を支える教育力の高い教育環境の整備・充実では、学校安全教育・防災教育の充実に防犯を加え、4 ページ(1) 学校安全教育、防災・防犯教育の充実といたしました。

5 ページから7 ページ上の表にかけて、第1章学校教育の充実における施策の目標を設定し、それぞれの令和5年度時点の現状値に対し、令和8年度の目標値を記載しております。

なお、7 ページの「学校に卒業した後も自主的に運動やスポーツに取り組みたいと考える児童・生徒の割合」ですが、根拠とする国の調査の結果が届いておりませんので、○%として表記しております。2月9日の定例会の議案では記載できると見込んでおります。

続いて、7 ページの下の表、学校教育の充実の主な事業を表にまとめております。

8 ページからは、第2章生涯学習の充実について記載しております。

9 ページ下段から12 ページにかけて、生涯学習の充実の展開施策を記載しております。第2章の生涯学習の充実では新たに施策体系に加えたものはありません。

14ページには、生涯学習の充実の施策目標と、それぞれの令和5年度の現状値と対する令和8年度の目標値を設定し記載しております。また、生涯学習の充実の主な事業をまとめております。

15ページをご覧ください。

環境問題への対応や地域社会の発展と国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」への取り組みを求められていることから、教育分野においても、SDGs達成に貢献できるよう、本案の展開施策ごとに17のどのゴールに関連性が高いか表記いたしました。資料本文中に「目標4」や「目標3・4」のように記載し、巻末に17のゴールのアイコンを記載しました。参照していただければと思います。定例会に議案として提出するまでにわかりやすいよう表記を工夫する考えでおります。

今後3年間の市の教育取組の柱になっていくものですので、率直なご意見を頂戴できればと思います。本日いただいたご意見により、それぞれの素案を修正する場合、反映したものを案として2月9日の第11日回教育委員会定例会に上程させていただく考えでおります。

議題についての説明は以上です。

平野部長

ありがとうございました。

それでは、説明が終わりましたので、協議に入らせていただきます。

委員の皆様、ご意見、ご質問、その他確認事項でも結構でございますので、よろしく申し上げます

嶋野委員

細かいところですが、参考資料 教育施策の振り返りを見ますと、学校教育の充実（1）学力の向上の中で、指導補助教員は令和2年度は7人だったのが令和5年度は12人と増員されましたが、課題として、対象の児童生徒が年々増加しているため、指導補助教員一人による学習指導支援が困難な場合があるとあります。

次期教育施策では、指導補助教員の人数は現状値12人に対して、令和8

<p>教育センター 所長</p>	<p>年度の目標値は同じ12人としています。児童生徒が減少するとはいえ、年々対象となる児童生徒が増えているとなると、目標として12人より少し増やしたほうが良いのではないかと思うのですが、その点はいかがでしょう。</p> <p>お答えします。人数を増やすことも検討しましたが、学校の状況や学習内容の確認をする中で、やり方次第で、満足な対応ができていた学校もありました。やり方について、内容を検討し、例えばタブレットの活用をしながら、プリントの採点を軽減したり、タブレットにより復習をして課題を提出したりするなど、指導を工夫することで、12人で対応できると考えました。</p>
<p>平野部長</p>	<p>他にございませんか。</p>
<p>池田委員</p>	<p>この教育施策の改定案は、時代の変化に対応して、取り組むべき課題であるとか、対応策がきちんと盛り込まれておりますので、賛同します。</p> <p>是非、これを羅針盤として取り組んでいただければと思います。</p> <p>そのうえで1点質問がありますが、図書館の運営について、来館者数目標を19万人に設定してあります。現状から微増ではありますが、19万人という来館者数はハードルが高いなと思いました。</p> <p>まだ図書館を利用されていない方に、いかにして来てもらうかという訴求、仕掛け作りももちろん必要ですが、2年目を迎えるにあたっては、リピート率をいかにして上げるかということに主眼を置くといいと思います。</p> <p>そのためには、やはり来館していただいた方の、一人一人の満足度をいかに上げるかということがポイントだと思いますので、利便性だとか蔵書の充実だとか、あるいは快適性、イベントの楽しさなど、色々な切り口があると思いますけれども、一つ一つ戦術をしっかりと立てて、何度も来館をしていただくような仕掛けづくりが必要だと思いますので、是非その点を心掛けていただければと思います。</p>

<p>生涯学習課長</p>	<p>もう1点、図書館を開館するにあたって運営を委託していますが、色々な意見が当初からあったかと思います。開館から1年近くたって、指定管理者制度をとったことについて、検証をしているのか、指定管理をして良かった点や課題が見えていれば教えてください。</p> <p>指定管理者の図書館流通センターは、全国で多くの図書館を運営しているので、開館当初から多くの来館者に対して混乱することなく、スムーズにスタートできたのではないかと思います。また、年間を通じて自主事業を多く実施しており、夏休み、冬休みに特化した自主事業など、特色をもった自主事業を展開していますので、多様なニーズに応えられるような事業をやっているのではないかと、課題としては、検証がどこまでできているかという点について、図書館協議会で事業の進捗や、委員からの意見を一つ一つ指定管理者と協議しながら、利便性の向上に努めていきます。また、年間を通じてアンケートの取りまとめ等を行っていこうと思いますので、PDCAという形で見えてきた点を改善していきたいと思います。</p>
<p>嶋野委員</p>	<p>図書館について振り返り資料の14頁で、社会教育施設整備の中での課題として、あまり本に親しみの無い人にも図書館の利用促進及び読書推進を図っていく必要があるとあります。</p> <p>先日図書館に行ったら、小学生の子がオセロを借りにきていました。そんなサービスがあるとは知りませんでした。それがきっかけで図書館に足を運ぶようになり、読書にも興味を持かもしれません。本以外の貸出のサービスを増やして、市民にしっかり周知したほうが良いと思います。そこで質問ですが、現在、図書館では本以外にどんなもの貸出しているのか教えてください。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>オセロの他、将棋など本以外の貸出をしまして、図書館の前のスペースでボードゲームをご利用していただいたり、他にはふるさとカルタを貸出したり、そういったものを通じて図書館に足を運んでもらうような取り組みをして、読書習慣の無い子にも、他の媒体を使って、一度足を運んでもらう取り組みの一環としております。</p>

<p>嶋野委員</p>	<p>例えば野球盤など、ゲームであっても皆さんに楽しんでもらえれば、ついでに本を見てみるということにも繋がると思いますので、検討してみてください、</p>
<p>藤平教育長職務代理者</p>	<p>教育施策の1頁で、語尾について、「進めていきます」、「参ります」、「努めて参ります」というように、表現が異なっているので、対象をどこに置くかなどで違ってきているとは思いますが、ここは統一した方が良いのではないかと思います。</p> <p>また、小学校の再配置に関する計画で、「保護者の理解を深め」とありますが、保護者の理解が第一だとは思いますが、併せて地域住民に対するアンケートや意見をもって再配置を進めるということを考えますと、保護者の後に地域住民という言葉が入ってきても良いのではないかと思います。</p> <p>また、4頁の不登校児童・生徒の支援が増加傾向にあるということが参考資料にも載っています。なぜきめ細かな対応をするために人員の配置や教職員の研修、様々な関係機関との連携を進めているにも関わらず、富津市に限らず全国的に増加傾向にあるのか、その根本的な原因は複雑であると承知はしていますけれども、富津市としてもなぜ増加傾向にあるのかという原因の追究がされていると思います。その中で、学校の再配置のことや、子ども達に打たれ強さを身に着けるような、不登校になった時の事後支援ではなく、不登校にならないための指導のようところで力を入れていること、小1ギャップだとか、小1プロブレムとか中1ギャップなどへの対応ですとか、起きてしまったことに対する対応ではなく、今後は、「不登校を生まない」ための指導に、もちろん現在も力を入れていると思いますが、教育施策の中にはそういった表現が盛り込まれていないのですが、希望としては言葉として盛り込んでいただきたいということではなく、教育の中でそういう意識を持って今後対応していくということを含めてやっていただけたらと思います。</p>

<p>学校教育課主幹</p>	<p>ご指摘の語尾の統一、再配置における保護者の後に地域住民という部分については、検討いたします。</p>
<p>教育センター 所長</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>不登校の事後対応ではなく、不登校にならないような事前の対策はとても重要だと考えており、教育施策本文にはそのような内容は記載していませんが、リンクしている部分はございます。</p> <p>児童生徒を取り巻く環境の整備・強化という中には、温かく子どもたちが学校に来られる環境づくり、よく来たね、また明日会おうねといったような、温かい環境をつくって子どもたち迎え入れ、対応していくことなど、この中に含まれているということでご承知置き願いたいと思います。</p> <p>また、不登校を生まない対策ということは、素敵な言葉だと感じます。生徒指導対応会議、適応指導員の研修会等においても「生まない対策」をキーワードとして次年度も強化していきたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>先ほどの再配置の話ですが、基本的には教育環境をどう作るかという中で、当事者である保護者の意向を大事にして進めていきたいというのを基本路線として持っています。</p> <p>地域住民の方々というのは、公共施設のあり方について意見を述べているのだと思うのですが、やはりまちが寂れてしまうだとか、過疎化が進むだとか、そういったところで意見を述べられる方も多々あって、ある地区では区長さんが先んじてアンケートをしているような状況もありますので、そういったものにはしっかりと耳を傾けていきたいと思いますが、基本的には保護者の方々の理解を深めて環境整備に努めていくというのが教育委員会のスタンスであって、前回は保護者の理解の進んでいるところからはじめて、地域の皆さんにご理解を得て進めてきたというのが計画の中にもありますので、そのスタンスはご理解いただきたいと思います。</p> <p>それと、不登校対策について基本的には嶋野委員のおっしゃった指導教</p>

員の増については、5頁にあるように自立支援員については現状値5人から目標値11人と掲げてあり、来年度についても増やしていただく状況です。これは、不登校対策、学校に来た時の対応も含め、学校に来られなくなってしまった子どもたちへの支援ということで掲げてあります。この成果がどのように上がってくるか、支援員の方々の力を借りて見ていきたいと思っています。

また、ご指摘いただいた不登校を生まない努力というのは、学校が安全で安心して楽しいところで、家にいるより学校に行きたいという子ども達をいかに増やすかというのが、具体策として校長会でも話をするのですが、不登校を出さない学校経営をなさいと言っても、なかなか難しい部分もあるのと、コロナ禍の段階で学校に行かなくても何とかなるんじゃないかという意見も出てきたり、フリースクールのようなものに対する社会的な見方が出てくる状況もあったりするのも要因としてあり、全国的にはそういった風潮の中で不登校が増えてきている現状があるのかなと思います。しかしながら、不登校を生まない努力をするために、やっぱり子供たちが学校に来るのが楽しいとか、充実感があるということが私たちの求めている学校の中でのポイントであるということは肝に銘じていきたいと思っています。

坂部委員

この教育施策は令和6年度から令和8年度ということで、目標値に向けて頑張っていたきたいと思います。

その中で、コミュニティスクールをもう少し力を入れて、令和7年度から全小中学校で実施されるということなんですけれども、地域の方々や保護者等、学校に携わる方が減ってきて、子ども達も地域にどんな人がいるのか、地域の方もどんな子供たちがいるのか、あまりわからない状態です。

能登半島の震災で、富津市でそうはなってほしくないですが、もし避難生活を送ることになった場合に、地元の体育館などでの避難生活を余儀な

<p>学校教育課主幹</p>	<p>くされた時、地域との関わりがあったほうが避難生活を送る上でもスムーズだったり、良く知っているから一緒に生活ができるというようなこともあるのかなと、これからのコミュニティスクールの中で、教育の場でも地域の方々と関わっていくことで、もし災害があった時も、スムーズな避難生活ができるんじゃないかなと思います。</p> <p>現状では、青堀小、大貫小、天羽小で進めておりますので、それを全体にというところで、その中で、地域の方々に関わってもらいますし、学校も地域に関わっていくということを充実させていきます。貴重なご意見ありがとうございます。</p>
<p>教育長</p>	<p>天羽小、天羽中など学区が広くなり、そういう点で地域の方々の協力体制についてはなかなか、天羽地区は区長さん方もかなり思っていて、学校に対する要求もあるんですけども、この間金谷のストーンコミュニティの時に売津石の話が出て、昔は天神山小の児童は授業で売津石の勉強をして、地域の勉強をしていました。これがなくなってしまう気がして残念ですという話が出て、それについては、地域を知るといえるか、最低限学区の中で、今統廃合されたときに湊小の子は売津石のことを知らない、金谷小の子も知らないじゃなくて、地域の文化や歴史なんかについても見ていく必要があるなど、その点では、地域の方にもご協力していただき、多くの子ども達に地域のことを知りえるような取り組みをするのもコミュニティスクールの違った面として、私たちが推進している富津市に愛着を持つという点では、やっていかなければならないことだと思います。ぜひともコミュニティスクールを形だけではなく進めて、地域に要求もされるし要求もすると、みんなの学校なんだという地域の意識を持っていただくような、そんな取り組みをしていけたら良いと思っています。</p>
<p>平野部長</p>	<p>他にございませんか。</p> <p>それでは、本日の議題は終了しましたので、これをもちまして、令和5年度第2回富津市総合教育会議を終了します。</p> <p>本日、頂戴したご意見等につきましては、今後、十分留意して、取り組ん</p>

	<p>でまいりたいと思います。</p>
--	---------------------

本日はありがとうございました。